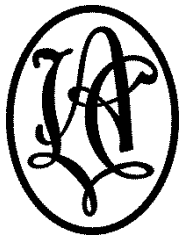


2025 第 70 号

千葉支部だより



J・A・C



令和 7 年 7 月発行

発行元（公社）日本山岳会千葉支部
〒290-0011

市原市能満 1261-5 三田方

発行者 三田 博

編集者 斉藤 和紀

E-Mail cib@jac.or.jp

（表紙の絵）

房総のコートダジュール（鋸山）

水彩画 小菅 一弘

〔 目次 〕

・六ツ石山（奥多摩の三急登）	山中 孝郎	p 2
・石老山（礫岩の山（ですね？））	國 宗文	p 2
・伊豆大島 三原山（～えっ雪山？飲み会？）	成田 知彦	p 3
・生瀬富士から袋田の滝へ	梶田 義弘	p 3
・棒の折山	中田 彩	p 4
・天目山（三ツドッケ）	中田 彩	p 4
・希少なヒカゲツツジ群生の「坪山」	齋藤 米造	p 5
・新緑の雨巻山	今井 貴朗	p 5
・登山道整備を続けています	松田宏也	p 6～7
・自然学クラブ巡検「全山チャートの大小山」	高橋 琢子	p 8
・国東半島集中山行に参加	三田 博	p 8
・茨城県 山菜山行	平野 直子	p 9
・三浦富士を超えて武山ツツジ祭り	和仁 加織	p 9
・第 18 回千葉支部定期総会とアマダブラム遠征報告	三田 博 平野 直子	p 10
・2025 年度千葉支部役員担当	三田 博 退任役員挨拶 山口 文嗣 小川 和敏	p 11
・奥多摩 シダクラ沢	三田 博	p 11
・こんにちは	灘 信宏	p 11
・あの日の島	小川 和敏	p 12
・ウォーキングクラブ報告	宇津木 仁典	p 13～14
・支部山行予定		p 14～15
・お知らせ	《事務局から》	p 16

50歳未満は、千葉支部への入会金と年会費2年間分を免除します！

千葉支部への入会には経験・年齢の制限は設けていません。身近な人で登山経験者や登山を始めてみたい方がいましたらご紹介ください。入会希望者向けの「ガイドンス山行」に参加できます。日本山岳会への入会もご相談に乗ります。特に若い方が入会しやすいように、50歳未満の新入会員は入会金 1,000 円と 2 年間の年会費（正会員 1,500 円又は会友 3,000 円）を免除します。

六ツ石山（奥多摩の三急登）

山中 孝郎



山行日/天候：2月22日（土）うす曇り

参加者：L 小川和敏、末吉千穂美、山中孝郎（3名）

タイム：奥多摩駅 9：30 発→六ツ石山登山口；10：15→トオノクボ；12：00～12：30→頂上 13：15
→トオノクボ；13：45→登山口；14：45

水根→六ツ石山は奥多摩の山の三急登のひとつだそうです。雲取山から奥多摩駅に下る長い尾根/石尾根の途中にあり大昔に通りが過ぎた記憶の山でした。



翌日にラジオ番組/山カフェで六ツ石山近くの七ツ石小屋からの放送を聴き逃しで聞いて、七ツ石小屋にも泊まり女性の小屋番さんにも会いに行きたいと思いました。とにもかくにも、

悔るなかれ六ツ石山の急登と低山の寒さの印象の限りの山行でした。ただ太陽がたまに顔を出した時の暖



かさは太陽の有難さをつくづく感じました。うす曇りの中、水根バス停を出発して昨年末に晴香園のハイキングで下った奥多摩むかし路を少し歩いて、民家の中からの急登が始まる。小一時間でや

っと平らな場所に到着。小学1年の男の子と父母の家族が黙々と登ってきて合流。その後1ピッチでトオノクボ、トオノクボで昼飯とするがとにかく寒い。早々に食事を済ませて山頂へ。山頂では登頂写真を撮って早々に下山する。下山は急坂の為思ったより早くに下れました。奥多摩駅の2階で小川さんと反省会をして帰宅。冬の低山山行を満喫できました



石老山（礫岩の山（ですよね？））

國宗 文



山行日：2025年3月1日（土）晴れ

参加者：L 宮崎美千代、三品京子、末吉千穂美、中田彩、國宗文（計5名）

タイム：相模湖駅バス 9：10 発→石老山登山口バス停 9：30→顕鏡寺 9：58→融合平見晴台 10：30→石老山山頂 11：10（昼食）→大明神展望台 12：20→渡し舟乗り場 13：20→乗船 13：35→下船 13：55→相模湖駅 14：20

3月初日なのにGW頃を思わせる晴天、顔を合わせた千葉山岳会的女子5人のメンバーに正直、ついていけるかな…と胸に一抹の不安を感じたのは個人的なこと。

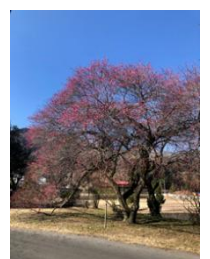
石老山は数年前、三木さんの地質学山行で訪れた山（ということをバスを降りて思い出した）。地質的には丹沢山系の端っこで大昔海の底だった礫岩の山（です



よね？）。病院の横の登山道入口から石が敷き詰められた道を上っていくと幾つかの大岩、奇岩が現れる。すぐに汗だくになり上着を脱ぐ。顕鏡寺からはスギ林の中、花粉症をこらえてひたすら登る。分岐で桜道ルートへ、眼下に町が見渡せて気分が良い。少し早めに山頂に着くと富士山を背景に集合写真を撮った（富士

して対岸の相模湖公園まで行く。15分ほど待たされたが春の日差しの中、船長さんの周辺ガイドもあり長閑で楽しい体験となった。

山見えるかな？）。昼食時、リーダーの宮崎さんから高級菓子の差し入れ、その後お菓子の交換会と皆の女子力高めな行動に用意していなかった自己を反省。大明神を過ぎるとザラザラのなかなかの急な坂を下る。いつの間にか皆のズボンのすそが砂ぼこりで真っ白になっている。下山後、中田さんのお勧めで渡し舟を利用



伊豆大島 三原山（～えっ雪山？飲み会？） 成田 知彦



山行日/天候：3月8日（土）夜 雨・雪、3月9日（日）曇り、霧、晴れ

参加者：L三品京子、三田博、末吉千穂美、平野直子、成田知彦 5名

タイム：東京竹芝発（フェリー）22:00→岡田港（バス）6:00→大島温泉ホテル 7:00→三原山お鉢巡り入口 8:20
→ 火口展望台 8:40→三原山山頂 9:15 →三原山お鉢巡り入口 9:20→裏砂漠分岐（テキサスルート）9:40
→11:00 大島公園→椿資料館や大島公園動物園→大島公園 （バス）12:10→岡田港 12:23
→岡田港（フェリー）14:30→東京竹芝 20:30

今回は天候に左右された山行となる。8日の関東は雨や雪。交通機関不通のリスクを考え、集合を少し早め浜松町近くの居酒屋で作戦会議を行う。店を出た時、周りは雪。それでもフェリーは時間通り出航、2等和室に他の乗客もおらず、2次会開始～消灯まで語り合った。消灯後物足りない一部のメンバーでレストランに移動し3次会スタート。時刻は1時を回り、深酒した状態で到着。港からバスで「大島温泉ホテル」に向かうが、記録係の体にはしっかりアルコールが残り、汗だくの状態でした。



さあスタート！と思った矢先、「えっ、霧が！」。視界はわずか10メートル先が見える程度。30分程様子を見るも状況は変わらず、仕方なくレインウェアを着込み山頂を目指して歩き始めました。霧は、進むにつれて濃さを増すばかり、風も吹くしまつ。そのせいなのかメンバーの足取りはどんどん速くなり、寒いはずなのに汗だくで、額には汗が滲んでいました。火口一周ルートを進む途中、三原神社から望む富士山、展望台からの火口も全く見え



とができませんでした。雪景色や強風といった厳しい環境を体感し、下山後には咲き始めた大島桜を見ることが出来ました。



ず、視界は常に白白白、地面には雪が積もり、「えっここは雪山？」と錯覚しそうな天候でした。山頂を越え、テキサスルートを進み裏砂漠が見え始めた頃から天候が回復し、青空が広がる。遠くに三原山の姿も確認できるほど、無事にゴールへ到着。バスの出発時間まで、近くを見学。（椿の種類之多さに、驚く）港の近くで昼食を楽しんだ後、フェリーで竹芝桟橋を目指す。帰りの部屋は他の乗客もいましたが、空いた部屋を探しては宴会を楽しみ、甲板やレストラン、デッキで盛り上がりました。竹芝には少し遅れて到着。内容の濃い楽しい山行となりました。三原山の景色はほとんど見るこ

生瀬富士から袋田の滝へ

梶田 義弘



山行日/天候 3月28日（雨のち曇り）

参加者：CL 三田芳江、SL 三田博、三品京子、小川和敏、宮崎美智代、山口文嗣、梶田義弘（7名）

タイム：町営袋田第一駐車場 9:30→登山口 9:40→生瀬富士 10:40→立神山 11:30→かずまの分岐 12:20→滝上展望台 12:30
→瀬川渡渉点 12:55→袋田の滝 13:50→町営袋田第一駐車場 14:20

福島と茨城の県境にある生瀬富士。「なませふじ」と読む。登山口から沢沿いに進むと、徐々に傾斜がきつくなり、最後は固定ロープを使わないと登れない岩場。スタートから1時間ほどで標高406メートルの狭い山頂に立った。視界が開けているので本来は筑波山など周囲の山々が見渡せるのだろうが、雨上がりでガスがかかって見えず、残念。ここまでは簡単な行程だったが、大変だったのはここから。



ロープを使って直角に近い坂を降り、尾根伝いに急傾斜の登り降りを何度も繰り返すトリッキーな展開に。やがて水音が聞こえ、袋田の滝を見下ろす展望台に到着。「滝のぞき」と呼ばれる絶景ポイントだが、高所恐怖症の私は怖くて近づけなかった。ゴールの袋田の滝は日本三名瀑の一つだけあって実に雄大。初めて見られて嬉しかった。



棒ノ折山

中田 彩



山行日/天候：4月5日（晴れ）

参加者：L 宮崎美智代、三田博、三品京子、末吉千穂美、中田彩（5名）

タイム：白谷沢登山口 8:25→岩茸岩 9:40-9:45→権次入峠 10:00-10:05→棒ノ折山 10:15-11:00（昼食）
→北東尾根入口 12:05→白谷沢登山口 12:15

菜種梅雨の合間の快晴。飯能の町は桜、梅、木蓮、水仙と一度に春が来たように賑やか。予定より40分早く登山口に到着し、山行開始。緩急豊かな川沿いを登る。雨が多かったからか、水量が豊かで美しい。途中から溪谷のよう、岩場も楽しむ。春の花のイワウチワ、ネコノメソウを愛でながら谷を詰め、尾根に。良いスピードで登り続け、岩茸岩到着。岩好きはもちろん登頂！急登を超え、権次入峠を過ぎ、棒ノ折山到着。



桜はまだだが、埼玉の山と街が一望、お日さまが燦々と注ぎ、風も弱く、気持ちいい。のんびり昼食をとり、下山。

わかりづらい分岐を右に折れ、急なくだりをひたすら進む。途中、小さな黄色い花が咲いた木が群生している。山茱萸？ダンコウバイ？皆よく知っています。あっという間に登山口に到着。

まだ12時過ぎなので、飯能駅に戻り、地元で愛される蕎麦屋で2度目の昼食。美味しかった。

溪谷、春の花、お日さま、そば、とたくさん楽しんだ贅沢な山行でした。

リーダーさん、お疲れ様でした、そしていつも楽しい山行をありがとうございます。

天目山（三ツドッケ）

中田 彩



山行日/天候：4月12日（晴れ一時曇り）

参加者：L 東蒼生、三田博、三品京子、山中孝郎、中田彩（5名）

タイム：東日原バス停 9:15→一杯水避難小屋 11:40-12:00（昼食）→天目山（三ツドッケ）12:30-12:45
→一杯水避難小屋 13:05-13:10→滝入ノ峰 14:05→東日原バス停 15:15

奥多摩駅 08:35 発のバスで東日原へ。乗客のほとんどが川苔山登山で東日原下車は数人。支度を整え、登山開始。町外れの脇道から急登をジグザグに進む。最初から息が上がる。一時間ほど登り、ようやく尾根に出る。二次林の広葉樹の森が美しい。崩れかけのトラバースの道を慎重に歩き、痩せ尾根を渡り、ヨコスズ山を抜ける。二時間半歩き、ようやく一杯水避難小屋へ。手早く昼食をとり、出発。山頂をトラバースし、分岐から急登を詰め登頂。高木が伐採された山頂で奥多摩の山々を一望。静かな山頂を満喫し下山。今日初めて登山者とすれ違う、川苔山方面からの縦走？ヨコ

スズ山を抜け、尾根に行く。急な痩せ尾根を登り、滝入ノ峰を通過。尾根は気持ちいい、足元には実生の双

葉が沢山、春です。降る方向を確認しながら進み下山。

よもやま話に花を咲かせながら一時間後のバスを待ち、奥多摩駅でビールを購入、ホリデー快速で乾杯し、帰途につく。

春の嵐の合間の好天に恵まれ、静けさを満喫できた山行でした。そして良いトレーニングになりました。リーダーさん、ありがとう！



希少なヒカゲツツジ群生の「坪山」

齋藤米造



山行日：4月16日（水） 快晴

参加者：L 三田 博、三品京子、坂上光恵、和仁加織、齋藤米造

タイム：上野原駅（バス）八ツ田 10：05→11：50 坪山 12：30→14：25 びりゅう館

平日だというのにバスは満員。それというのも坪山には滅多に見られないヒカゲツツジが群生し、満開を迎えているからだ。麓は桜が満開、歩き始めるとカタクリ、ヤマブキが出迎え、やがて一人静（ヒトリシズカ）を発見すると、ここから今を盛りにミツバツツジの群生が続く。地べたを張り付くようにイワウチワも可憐な花を咲かせている。お目当てのヒカゲツツジが登場。淡いクリーム色の清楚な花。自己主張しない姿が、その名にふさわしいと思った。



坪山は”坪庭”のイメージとは違って山頂前後はロープが続く急傾斜で、ひと汗かいた。ベツタリ雪のつ



誇るであろう坪山は、まさに花の名山だ。今回がデビュー山行の和仁さんにも、登山の喜びを満喫してもらえたと思う。

いた富士山を眺めてから下山。二つの小さなピークを越えてコースタイム通り、びりゅう館に下山した。

10日後には、イワカガミの群生が咲き



新緑の雨巻山

今井 貴朗



山行日／天候：4月26日（土）晴れ

参加者：L 小川和敏、山中孝郎、末吉千穂美、今井貴朗

タイム：大川戸登山口 9:05→三登谷山 9:40→雨巻山 10:55→展望塔 11:30→雨巻山 11:34→峠 12:17
→御嶽山 12:36→足尾山 12:55→タイタニック岩 13:16→大川戸登山口 14:04

GW 初日の土曜日にも拘わらず渋滞にも遭遇せず順調に登山口着、新緑溢れるなだらかな山に囲まれた雰囲気が嬉しい。林道を少し歩き右折、檜に囲まれたなだらかな登山道は春の香りに溢れている。程なく最初のピーク三登谷山、柔らかな



風が気持ち良い。此处から雨巻山は1時間程度で到着、目の前に広がるなだらかな山々の新緑を楽しみながら早目の昼食。近くの展望台までピストン、塔の上から



の景色も絶景だ。その後もハイキング気分アップダウンと花々を楽しみながら御嶽山、足

尾山と順調にピークをこなしていく。予定時間よりかなり早いペースなのでリーダー提案にてタイタニック岩なる場所を経由して登山口に戻った。タイタニック岩は船の舳先に似て景色も大きく広がる。下山後は登山口の名物ピザを楽しみながら余韻に浸った。



●● 登山道整備を続けています ●●

●4月8日(火) 関東ふれあいの道 晴れ ; 三田博、東 蒼生、松田宏也、CMSCA1名 (4名)

なんてステキな日にあたったのだろう。君津 IC を下りてから登山口までは、これ以上の満開はないとソメイヨシノが咲きほこっていた。今回の整備は石射太郎から鹿野山へ続く関東ふれあいの道だ。千葉支部から3名と CMSCA 会長の4名が参加した。

トンネル前の登山口から急登を登ると石射太郎である。頂上で大展望を楽しんだあと鹿野山へのルートへ入ると、すぐに道は倒木で塞がれた。鹿野山ルートは長い間通行止めになっているが、その理由に納得。次々と現われる倒木はどれも大きなものばかり。チェーンソー2台がうなりを上げる。



さっそく道が塞がれた



通れるようになった



すぐに次の倒木



チェーンソーが大活躍

このルートは2019年の台風以前にも土砂崩れで道が崩壊し、倒木もそのときのものが多いらしい。もっと簡単に済むかと思われたが、倒木が大きいので時間がかかる。今回は石射太郎から1.3kmほどしか進めなかったが、一番の難所は片付いたようだ。この後は次回の方々に頑張ってもらう！

下山を開始すると石射太郎の手前で桜の大木がポッキリと折れ道を塞いでいた。満開の山桜が、花びらをつけたままポッキリ。なんてもの悲しいこと。いっぱい花をつけた枝を有り難くいただき、家に持ち帰った。(松田宏也)



帰り道、山桜がポッキリ



持ち帰った山桜

●4月19日(土) 関東ふれあいの道 晴れ ; 三田博、成田知彦、松田宏也、CMSCA3名 (6名)

4/8に続いての登山道整備、今回は逆コースで田倉地区から石射太郎に向けての倒木処理と清掃である。465号線の九十九トンネルを抜けてから左折し、狭い林道をほどなく進むと、パッと開けた空間に民家が現れる。車を停めさせてもらった家の方からは恐縮なことに、「整備ごろうさま」とお茶とおやつの差し入れをいただいた。登山口にある通行止めの看板から、さっそく清掃と倒木処理を開始。

日本山岳会千葉支部

「今日は暑いなあ～」4月というのに夏日らしい。里山にチェーンソーのうなり音が響く。チェーンソー隊を横目に登っていくと、枯れ枝、落葉が詰まった道の清掃とステップ切り、階段の補強と地味な作業が続き、朽ちた電気柵が置かれた峠まで汗をかくことになる。ここまでやれば、この先は前回の整備で済んでいるので本日の作業は終了だ。

このルートは10数年のあいだ通行止めになっていたが、これで石射太郎から鹿野山に抜ける田倉地区までの道が通行できるようになった。歩きやすく気持ちのよい「ふれあい道」だ。役所がチェックし、通行止めが解除になったら、ぜひ多くの方に歩いてもらいたい。皆さん、本日の整備もお疲れさまでした。(松田宏也)



通行止めの登山口からすぐに清掃開始



通行止めの登山口からすぐに清掃開始



道を塞ぐ倒木を切る



尾根は立派なふれあいの道だ

●4月27日(日) 関東ふれあいの道 晴れ；斎藤米造、松田宏也、渡邊悦郎(会友) CMSCA4名 (7名)

2週続きの整備でキレイになりました☀

先週に続いての田倉地区から台倉の廃屋までの整備である。春は1週間で景色が様変わりする。いっきにツツジ、フジの花が咲きほこる。それにつられて、ホケキョホケキョ、鹿のヒューヒュー、ケーンケーンのキジと賑やかだ。今回は埋もれた擬木階段の掘り起こしと木製階段の新たな設置、それと積もった落葉の清掃に取り組む。4時間まじめに働くと、見違えるようにキレイですっきり、安全な道となった。これでもう大丈夫。この暖かさなのに、ヒルがいないと安心していたら、しっかり1名がやられた。これからはヒルの季節。今シーズンの整備はそろそろ打ち止めか？(松田宏也)



木製の階段を設置



熊手で落葉の清掃。右手は大きな倒木



白フジが満開だった。

自然学クラブ巡検 「全山チャートの大小山」

高橋 琢子



山行日/天気 4月26日(晴れ)

参加者: 三木雄三、宇津木仁典、黒住清美、斉藤和紀、塩塚生二、高橋琢子、竹内進、羽藤美代子、平出正美、三品京子、山口文嗣、吉永英明(12名)

「大小山は、足利市の東部に位置する、低山ながら好展望の山である」と、山の本やネット上には載っている。しかし、チャートの文字は無い! 10時15分、富田駅を出発。山肌に「大」「小」の文字が掛けられているこんもりとした山を目指す。



阿夫利神社側の登山口で、リーダーの三木さんからチャートのレクチャー。「チャートとは、放散虫などの殻が海底に堆積してできた岩石。非常に硬い。1mm堆積するのに1000年掛かる。南アルプスの赤石岳も同じチャートで、色を山の冠にしている」等々。「なんで赤いんだろう?」と三木さん。赤は、鉄など鉱物の酸化が起因して、他の色も堆積した環境によって変わるとのこと。興味深い。山道には尖った欠片が多く散らばり、頂上に近づくにつれ、壁のような露岩が現れる。壁面は層状をな



したチャートが、斜めになったり、縦になったり、彎曲もしている。地球の成り立ちを覗き見るような感動だ。梯子を上り、鎖場を超え、赤いチャートを掴み、大小山頂上に到着。こんもりと見えた山がガチガチの岩山とは! 登って見なければ分からない。自然学の楽しさだ。更に歩を進めて、北嶺という

妙義山山頂。ここからの景色は正に360度の大展望。関東平野はもちろん、赤城山や雪を纏った山々がはるか遠くに見渡せた。「好展望の山」納得である。



国東半島集中山行に参加

三田 博



支部参加者: 三田博、節田重節・夫人、安間繁樹、上村紀子、吉田望、福里清信、成田知彦

JAC120周年記念事業の山岳古道調査の一環として、大分県の国東半島集中山行が4月25日から27日にかけて行われ参加してきた。私は前泊して、25日の中山仙境や旧千燈寺を巡るコースにも参加した。中山仙境は、本部の案内でも「ヘルメット推奨」と書かれていたので、岩稜歩きが楽しかった。西上州の岩山のように、それなりにスリルがあった。それよりも分かったのは、山岳信仰との強い結びつきだった。国東半島は古代より仏教・修験道が盛んで、火山が残した深い谷と急峻な崖が荒々

である両子山(ふたごやま・721.6m)で集中登山をおこなった。「鬼の背割り」などという岩の隙間を通り登り、途中からは山頂直下のレーダー保守用の舗装道路を歩いた。しかしこれが案外急で荒れていた。山頂には展望台もあり、特徴的な双耳峰の由布岳や鶴見岳がよく見えた。下山後は両子寺で登山の安全を祈願して頂いた。

26日夜は、宿泊したホテルで総勢80人近くでの大懇親会。ここでも東九州支部から美味しいお酒の差し入れがあり、大変盛り上がった。主催した山岳古道調査プロ



ジェクトチーム、マウンテンカルチャークラブ(MCC)、東九州支部の皆さん、ありがとうございました。



しい修行の場をつくりだしたそうだ。山中にもたくさんの祠や仏像があり、麓には寺社がかならずあった。26日は国東半島の最高峰

茨城県 山菜山行

平野 直子



山行日/天候：4月25日（金）雨

参加者：L平野直子、三品京子、宮崎美智代、羽藤美代子（4名）

恒例の北茨城に山菜を愛でに行きました。当初茨城県単独最高峰を目指すつもりが、現地ではあいにくの霧雨、山麓の散策になりました。

今年はいつもとより一週間以上発育が遅い感じでしたが、条件の合う場所を探してうろうろ、それなりの収穫になりました。みんな狩りに夢中で写真が殆どありませんが、知る人ぞ知る山奥のお蕎麦屋さん近くの風景です。



♪ こんにちは ♪

灘 信宏



昨年の春、日本山岳会千葉支部に入会いたしました灘 信宏（なだ のぶひろ）です。去年の12月には日本山岳会にも入会いたしました。

私が生まれた年は、「地球は青かった」で有名なガガーリンが人類で初めて宇宙に行った1961年です。

子供の頃、四国に住んでいたもので、一度、家族で石槌山へ登りました。怖い鎖を登ったので今でも鮮明に覚えています。また、小学校の裏山が源平合戦で有名な屋島だったので、学校行事で時々登っていました。父は登山サークルに入っていたみたいで、週末によく登山をしていたようですが、家で山の話はあまりしませんでした。

山登りの経験は石槌山に登ったきりだったのですが、2年前に父が亡くなって、ふと千葉県の烏場山に登りました。それから、何かに取りつかれたかのように、よく山に行くようになりました。

一年中、山に行くようになったので、「なぜそんない山に行くの？」と聞かれてしまいました。見たこともないよう



な絶景に出会ったり、下山後の美味しい食事も理由かもしれません。また、何となく自分の身体が少しパワーアップしたような錯覚が心地よいのかも

もしれません。「マザーツリー/スザンヌ・シマード」（自然の木々が知性を持ち、互いに意思疎通する共生のメカニズムを記しています。）を読んでからは、木立の中を歩く時、木々が語りかけてくるような不思議で神聖な気持ちになった気がするのも理由かもしれません。

自分でもよくわからない山に行く理由はさておき、今年は初めて初心者向けの雪山に登り、雪山の美しさや厳しさに魅了されました。また、夏には3泊4日で折立から新穂高温泉に抜けるルートで雲ノ平に行く計画を立てています。激戦の雲ノ平山荘もなんとか予約することができましたが、4日間歩ける体力づくりを兼ねて山登りを楽しみたいと思います。

まだ、登山を始めて3年目の初心者なので行きたい山が沢山あります。安全登山で絶景に出会うのを楽しみに山に行きたいと思っています。

今後ともよろしく、お願いいたします。



●● 第18回千葉支部定期総会とアマダブラム報告会 ●●

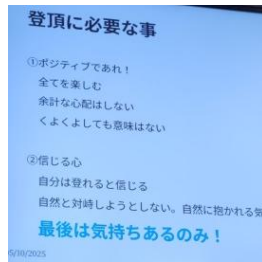
●千葉支部の第18回定期総会が5月10日（土）、千葉市生涯学習センターで開催された。総会は会員28名、会友6名が出席した（書面による議決権は46通）。2024年度の事業報告、収支決算報告、監査報告と2025年度の事業計画、収支予算、役員選出などの議案が提出され、すべて原案通り承認され総会は無事終了した。



●休憩時間を使ってスケッチアートクラブ会員の力作絵画を鑑賞した。



●引き続き、恒例の記念講演会は、平野直子会員による昨秋のアマダブラム遠征報告会がおこなわれた。迫力あるスライドとヘリコプターによる緊迫した救助シーン動画などが上映された。会場にはアマダブラムで撮影された写真を齋藤米造会員がパネルにして展示。美しいヒマラヤの風景を楽しむことができた。



●続いて、これも齋藤会員が作成した支部登山道整備「房総の山復興プロジェクト」の活動動画を上映した。



●午後からは千葉駅前の居酒屋で懇親会が開かれ、和やかに歓談した。参加された皆様、一日お疲れ様でした。

●● 2025 年度 千葉支部 役員担当 ●●

● 5 月 10 日の支部総会にて役員が選出され、5 月度の役員会にて各担当が以下の通り決まりました。

《役員》

監事 廿楽敦夫、平出正美
支部長 三田博
事務局長 三品京子
会計 渡部孝雄
遭難対策・技術指導委員長 平野直子
山行委員長 三田博（兼務）
山行副委員長 今井貴朗、三田芳江、宮崎美智代
広報委員長 斉藤和紀（支部だより）
青少年育成事業委員長 香高真奈美（晴香園山行）

《協力委員および各種事業担当》

山行委員 小川和敏、成田知彦、小栗山大介、東蒼生
房総の山復興プロジェクト 松田宏也
晴香園山行 三木雄三、中田彩
ウォーキングクラブ 宇津木仁典
ユースクラブ 三田博、平野直子
自然学クラブ 三木雄三
スケッチアートクラブ 小川和敏
120 周年山岳古道 山口文嗣
房総 Base 担当 松田宏也
《支部 20 周年事業委員会》
三田博、平野直子、三品京子、渡部孝雄、松田宏也

● 支部設立時から在籍され、副支部長等の役員を歴任された山口文嗣会員と支部だより編集長の小川和敏会員は役員を退任されました。お疲れ様でした。

山口文嗣



この度千葉支部の役員を退任させていただきました。

篠崎初代支部長の要請により 2010 年に役員就任以来 15 年間、支部役員を務めさせていただきました。この間「房総半島分水嶺踏査」（2009 年 10 月～2013 年 3 月）、「房総半島郡界尾根踏査」（2014 年 11 月～2018 年 12 月）、日本山岳会創立 120 周年記念事業の全国山岳古道調査の千葉支部担当の「鹿野山古道」（2021 年 11 月～2022 年 10 月）を、リーダーとして達成でき、それぞれ報告書を上梓（鹿野山古道は本年 8 月 11 日の山の日までに日本山岳会の HP にアップされる予定）することができました。これも支部員諸兄のご協力のおかげと感謝いたします。役員は退任いたしますが、今後も一支部員として山岳活動は続けていきますので、よろしくお願いいたします。

小川和敏



第 3 代支部長の三木さんにおだてられ、広報担当役員になったのが確か 5 年前になります。当時は今ほど千葉支部の HP も活性化していなかったもので、主な担当は年 4 回発行の支部だよりの編集でした。WORD を駆使して、と言うより振り回されつつ、51 号から 69 号までを何とかこなしてきました。山行委員も兼務しての活動はそれなりに充実したものでした。後進の広報担当に無事引継ぎが出来てホッとしています。これからは協力委員として支部活動のサポートにまわります。そしてソロ山行にも勤しもうかと思っています。

奥多摩 シダクラ沢

三田 博



山行日/天候：5 月 5 日（月・祝）晴れ

参加者：L 三田博、三品京子、杉原順子（3 名）

タイム：シダクラ橋 8：50→入渓地 9：00→脱渓 11：15→登山道 12：50→指沢山 13：30→奥多摩湖 14：20

GW 終盤で、翌日は雨予報とあって奥多摩駅は人でいっぱい。臨時便バスが次々出ていく。奥多摩湖行きバスで惣岳 BS 下車。むかし道から一度に 2 人しか渡れないシダクラ橋で対岸へ。取水堰上で沢装備して入渓する。

シダクラ沢は、奥多摩にしては珍しく明るい沢で、登れる滝が連続して面白い。5 月は新緑が美しいが、やっぱり水を浴びると冷たいので濡れぬよう気を遣う。滑りやすいので



途中念のため 3 回ほどロープを出した。奥の二股を過ぎ水流が無くなると、ツメは急な斜面になる。ズルズルの急斜面を四つん這いになり登る。ここが今日の核心部。何とか御前山の登山道に出て、ほっとひと安心する。装備を解除したら奥多摩湖までの登山道を下る。人気の山なので登山者は多い。ダム周辺も観光客でにぎやかだった。しかし、沢の中では誰とも会わず、静かな沢登りを楽しめた。



あ の 日 の 島

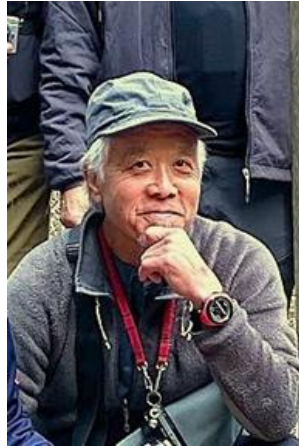
— 魅せられて、今も —

小川 和敏



初めて屋久島を訪れたのは、2013 年の 5 月。前々から気持ちの片隅に「屋久島」が有り、いつか行ってみたいと思っていたところ何と長男が先に屋久島へ。長男に先を越されたことで火が付き、すぐに、島の情報を収集し宿を予約しフライトを確保しました。ご多分に漏れず訪問先は縄文杉。荒川登山口までのバスチケットを購入し、大勢の中の一人としてトロッコ道を歩きます。気持ちの昂ぶりから平坦なトロッコ道を飛ばし過ぎ、大株歩道の急登に酷く苦勞しました。もうひとつはウミガメの産卵です。永田いなか浜で見た早朝の産卵は感動ものでした。そして、その夏には宮之浦岳登山とウミガメの孵化、秋には各集落で行われる綱引きの綱打ちや綱飾りの追っかけ、更には初冬に龍神杉と明星岳登山と、1 年に 4 回の訪問となりました。島の自然と、そこで出会う人たちの縁のようなものに魅了され、その勢いはとどまることがありません。

印象に強いシーンを紀行メモから振り返ってみます。まず挙げられるのが 2014 年 1 月の縄文杉訪問です。大株歩道手前辺りから雪が現われ、縄文杉周辺は見事な雪景色。そこに驚いたことにイタチが現われました。哺乳類の種類が少ない屋久島で、しかも縄文杉で遭遇したのです。次は、2014 年 6 月のシャクナゲ登山です。何十年に一度と言われたシャクナゲ豊作の年で、黒味岳と宮之浦岳に 2 日続けて登ってしまいました。屋久島のシャクナゲはまさに「全山シャクナゲ」と言った感じで、眼に入る山肌のすべてにシャクナゲが咲いているので桃源郷そのものです。もちろん写真を撮りまくりましたが、どの写真も実際に自分の眼でみた景色にはかなわないものでした。



白谷雲水峡の太鼓岩から見るヤマザクラとヤクシマオナガカエデの新緑のコーボも桃源郷として有名ですが、このタイミングにはなかなか遭遇できず、2021 年によく遭遇出来ました。何人かのグループで行ったのですが、こちらひとりだけが残った日に幸運にも天候に恵まれ見ることが出来ました。淡いピンクと鮮やかなグリーンを背景に何本かの白骨樹が浮かび、その後ろには奥岳が連なって見えます。駐車場から 1 時間半ほどで到達できる桃源郷です。白谷雲水峡は苔むす森などで有名ですが、一番の見どころは太鼓岩からのヤマザクラでしょう。

中でも圧巻だったのは、2022 年 1 月の愛車ジムニーでの屋久島訪問です。倉敷と鹿児島に 2 泊してフェリーで上陸しました。島に着いた翌日に島一番神聖といわれる石塚山へ向かいます。まあ慣れたルートを進み頂上の大岩に登りました。先ほどからガスっぽくぼんやりとした感じです。何も見えないか？とガッカリ状態に。うんっ？何か見える！・・・まさかのブロッケン現象です。大岩の上で慌てて写真を撮りまくり、踊りまくり・・・といった大きなご褒美をもらいました。苦勞して、千葉から愛車で屋久島を訪れたお陰かも知れません。



初めての屋久島からもう 12 年目になりました。未だに飽きることはなく、それなりの宿題がまだまだあります。いつまで訪れることが出来るのか？いつまで屋久島の自然が極端に荒れないでいてくれるのか？屋久島の人々のことも含め、変わらないままであってほしいと切に思うこの頃です。



三浦富士を越えて武山ツツジ祭り

和仁 加織



山行日/天候 5月3日(土・祝) 晴れ

参加者：L 松田宏也、山中孝郎、坂上光恵、森武昭(神奈川支部)、和仁加織 (5名)

タイム：京急長沢駅 10:05→三浦富士 11:10→砲台跡近くにて昼食 12:00

→武山 12:40→京急津久井浜駅 14:10

前日が大雨だったため、濡れ落ち葉やぬかるんだ道を登りながら、下り道の心配をしていました。けれども前日とは打って変わっていい天気！風もほとんどなく気温もぐんぐん上昇かと思いきや、木陰はとても気持ちよく、快適に歩けました。

三浦富士のピークからは、ラッキーなことに本家・富士山を眺めること



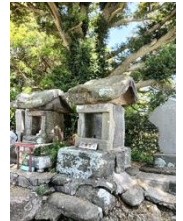
ができ、三浦富士は、あの富士山と同じような姿なのかしら……と思ったり。武山では今日から5日までツツジ祭りが開催中。市長や県議のごあいさつの後は、浴衣姿のご婦人方が登場。神奈川県なのになぜか東京音頭の盆



丈夫でした。

いちご農園、かぼちややキャベツ畑の中のルートを通り、今晚の夕食に三浦産の野菜を買おうかなと思いながら歩いていると、いつのまにか京急津久井浜駅に到着。たっぷり三浦の春を楽しむことができました。

踊りで盛り上がっていましたが、残念ながら主役のツツジは満開の時期をちと過ぎていました。1週間遅かったかなあ〜。前日の雨で滑りやすくなった下り道はステップがしっかりとっていたので大



ウォーキングクラブ報告

宇津木 仁典



●房州の岬(大房岬・洲崎岬)一泊ウォーキング

N029 2月22日(土)晴れ〜23日(日)晴れ

参加者：L 宇津木仁典 平出正美、梶田義弘、竹園清隆、長谷川博、高橋啄子、黒住清美、吉野聰、新井好夫、塩塚生二、吉田望、坂上光恵、小林ユキ子 (13名)

クラブ目的「会員と楽しみを共有して脚力保持と有酸運動で健康維持」である。

とみうら道の駅・枇杷倶楽部 10:50 スタートして、まずは、自然が残っている「低山」感じの「大房岬」へ向かって一望千里の海岸沿いを歩行した。

とみうら道の駅・枇杷倶楽部 10:50 スタート後は、大房岬には40分程で到着した、主な立ち寄り地は絶景スポットがみられた「明神岬」、第一展望台、第二展望台では、険しい崖と碧く澄んだ海を展望し岬内の整備路を周回した。

「大房岬」内のウォーキング(歩行距離約7km)が終わって、ゴール地のレストハウス前からバスに乗り換えて、館山駅で民宿地経由のバスに乗り換えて館山最西端(洲崎地区)民宿へ向かった。乗り換えの僅かな時間に、皆々は二次会用に飲食品をコンビニで購入して17:00 岬の宿(民宿・善平)に到着した。18:00 ちょんまりとした佇まいの食事処で、女将さんが自ら南房総でとれる新鮮魚介を厳選し、食卓いっぱい調理した料理で飲食しながら会話が進んだ。女将さんは皆さ



大房岬「明神岬」に於いて

ん楽しい人達ですネ。私も楽しく喜んでしまう、手料理も残さずに召し上がっていただいて嬉しいです……と話していた。反省会は22:30 終了した。(歩行距離は約7.0km)



懇親会「民宿・善平」に於いて

宿泊翌日は、民宿チェックアウト時に同民宿に荷物デポして9:50 ウォーキングスタート経由立ち寄り地は国の登録有形文化財指定の房総半島南端に位置する「州崎灯台」。「長い階段を一気に上がろうとすると、途中でへばってしまう。でも一段ずつ確実に上がっていけば、時間はかかっても頂上まで上がることができる」(《高橋尚子》マラソン著書から) 学びながら、高台の「洲崎神社」丸みを帯びた細長い石は、付近の岩石と異なった「御神石」昔道を歩きながら旧跡に立ち寄り、岬の宿(民宿)に到着してウォーキングゴールとした。(歩行距離は約5.0km)。女将さんサービスのコーヒー(タイム)後は、テポ荷物を背負い、女将さんからお土産用に路地花(ストック)を頂戴した各自ストックを抱え、バスに乗車しJR館山駅に到着した。両日にわたるウォーキングを解散した。(この日の歩行距離は約5.5km)

帰途に向かう電車内で16:30頃にクラブ員の1人が「昼食をすることを忘れた!」との言葉を耳にした。しかし満腹で別腹にも入らない。何も食べられない。それは、帰省前に館山駅近くのイチゴ狩りセンターに立ち寄り、観光バス及びマイカーが続々と長蛇の列で待つこと約30分「30分=1,900円」いちご狩りにあった。販売用いちご価格を見ると1パック1,000円であったので「いちご狩り」では2パック以上を食べようと決心して、食べ続けて約20分過ぎたところ満腹だあーこれ以上食べたらずばい。体に障害が発生するかも?大満足していちご園を脱出。それも昼食を忘れるほどに満腹になるとは……。いっぱい歩き飲食し充実した2日間であった。

支部山行の予定

- 山行の心得 - リーダーは、ガイドや添乗員ではありません。
「連れて行ってもらう」ではなく、自主的な意識を持ち参加してください。

リーダーが参加者にそれぞれ役割を振り分けますので、積極的に引き受けてください。参加する前に、山城、コース、交通機関などは地図やガイドブック、ネットなどで十分下調べして下さい。地図・コンパス・筆記用具は、どんな山行でも必ず持って来て下さい。また、山行に見合った登山保険には必ず入って来て下さい。遭難救助付きの保険加入は任意ではなく、すべての登山者の義務です。体調不良者が出れば事故と同じで、山行は中止になり引き返すことになります。日頃の自主トレーニングも是非行なうようにして下さい。

リーダーの連絡先	
松田 宏也	印刷版を参照してください
三木 雄三	
三田 博	
三田 芳江	
平野 直子	
小川 和敏	
三品 京子	
今井 貴朗	
宮崎 美智代	
東 蒼生	
小栗山 大介	
成田 知彦	
香高真奈美	
宇津木 仁典	

《難度》

W ウォーキング

A 整備され歩行2～3時間

B 歩行5時間前後

C 歩行7時間前後、一部岩あり体力要

D 強い体力、岩技術要

E 高い適応能力要、危険度大

(難度はJAC日本300名山を参考。岩・沢及び積雪期は難度アップとする。)



個人山行も計画書提出を 送信先: cib@jac.or.jp

● 山行の申込み

申し込みは、原則として電子メールで行ってください。その際には下記事項の記入をお願いします。
また山岳保険には必ず加入して来て下さい。

①氏名②生年月日・年齢③住所、自宅電話番号、携帯電話番号④緊急連絡先氏名(続柄)、緊急連絡先電話番号
※年齢は山行日の年齢です。計画書と違うと保険が効かない可能性もあります。

山行は定員を設けています。また、技術・体力不足、初参加で力量不明の場合はお断りすることもあります。

各山行形態に見合った山岳保険に加入していない場合は、当該山行には参加できません。

山行カレンダー（7月～12月）

日程	山 名	難 度	備 考	リーダー	締切
7月5日(土)～6日	奥鬼怒・湯沢噴泉塔	C	秘境でウォーターウォーキング	三田	6月21日(土)
7月27日(日)～28日	苗場山	C	秋山郷の民宿泊で小赤沢コース往復	三田	締切済み
8月2日(土)～3日	房総 Base 草刈り②		猛暑の草刈りの後は Beer Party	松田	7月27日(日)
8月11日(月)～12日	前白根山と白根隠山	C	湯元スキー場でキャンプ	三田	7月27日(日)
8月24日(日)～26日	北アルプス・立山	C	雷鳥沢テント泊	三田	8月1日(金)
9月1日～30日	袖ヶ浦市内中学校		野外活動支援予定 5校	三田	
9月5日(金)～7日	火打・妙高	C	山小屋2泊	今井	7月25日(金)
9月12日(金)～13日	金時山	B	前泊 金時神社から乙女峠を経て	小川	8月1日(金)
9月20日(土)	古賀志山(栃木県)	B	日本百低山 森林公園から山頂へ	三品	9月5日(金)
9月26日(金)～28日 (予備日29日)	北アルプス伊藤新道	C	湯俣から沢を辿って三俣蓮華岳までの秘 境に行く道	平野	8月17日(日)
10月4日(土)	高川山	B	初狩から登り富士山を眺める	今井	9月19日(金)
10月17日(金)～18日	鳥海山	C	秋川ヒュッテ(避難小屋泊)	三田	9月5日(金)
10月25日(土)～26日	全国支部懇談会		主催：関西支部		
10月25日(土)	鳩ノ巣溪谷バットレス	A	溪谷の地形を学ぶ	三木	10月18日(土)
10月26日(日)	鳴虫山	A	鳴虫山から憾満ヶ淵へ	宮崎	10月10日(金)
11月1日(土)～2日	尾瀬・至仏山	C	鳩待峠から	三田	9月30日(火)
11月22日(土)	鷹ノ巣山	B	奥多摩三大急登の先に富士山展望	小川	11月15日(土)
11月29日(土)	陣馬山	B	陣馬山から小仏峠そして相模湖へ	三品	11月8日(土)
12月20日(土)～21日	忘年山行	B	房総の山	三田	71号にて

※ 薄グリーン着色山行は、日程などの変更があった山行、あるいは新規に提案された山行を示す。

※ ウォーキング実施月日及び実施地区は、リーダーが決定のうえ「山行カレンダー」に掲載していましたが、7月以降は掲載しません。7月以降のウォーキングは、ウォーキング会員が毎月(1回)の実施計画を策定のうえ、ウォーキング会員に事前にお知らせたうえ、実施することになりました。
なお、ウォーキング会員を御希望の方は、宇津木宛にメール配信をお願いします。

※ 晴香園山行は年4回を予定しております。山行日程表に掲載されていない場合でも都度支部メール等でお知らせ致します。
事務局 香高真奈美 ka7c3f7dd7m6gs@softbank.ne.jp

※ 袖ヶ浦市内中学校野外活動支援山行の詳細日程は別途お知らせします。

お知らせ

《事務局から》

●支部年会費の納入について

令和7年度年会費の振込みをお願い致します、支部の運営にとって大切な原資です。

未納者には、支部だよりの配布、並びにメール他での連絡を停止します。

以下がゆうちょ銀行の送金口座です。

記号番号で送金の場合：00270-8-105649

店名で送金の場合：ゆうちょ銀行 029 店 105649

加入者名 日本山岳会千葉支部

●5月の全国支部連絡会議が開催

5月28日リモートによる支部連絡会議が開催されました。

会議で取り上げられた主な項目は下記の通りです。

1. 令和6年度決算報告関連：支部特別事業補助金の未精算に関して
2. 準会員制度、本部事務局長の位置づけに関して
3. 支部からの連絡事項：全国ボランティア集会を11月15日、16日に予定、参加のお願い。
16日には視聴障害者の方々との体験登山を行う予定。

●役員会報告

○3月報告 3月19日（水）リモート（三田、三品、小川、甘楽、斉藤和、三田芳、渡部、平出、今井、成田）

◇山行・行事報告 2/22 六ツ石山、2/22～2/23 大房岬・洲崎、3/1～3/2 房総 Base 花見の会、3/1 石老山、
3/7～3/8 伊豆大島 三原山

◇山行・行事予定 3/23 都内・赤坂 W、3/28～3/29 生瀬富士、4/5 棒ノ折山、4/12 天目山など

◇報告・検討事項 支部通常総会について、支部だより 69 号について、東京支部設立総会、
北海道支部創立 60 周年記念交流会、支部連絡会議、登山教室指導者養成講習会参加、

○4月報告 4月15日（火）北海道魚鮮水産千葉駅西口店にて（三田、三品、甘楽、山口、平野、渡部、平出、
香高、宮崎、東）

◇山行・行事報告 3/23 都内・赤坂 W 3/28～3/29 生瀬富士、4/5 棒ノ折山、4/8 登山道整備、4/12 天目山

◇山行・行事予定 上野原 坪山、安食地区 W、茨城県山菜山行、栃木県・雨巻山、足利大小山、三浦富士～武山、
奥多摩・シダクラ沢、南会津 山菜山行など

◇報告・検討事項 支部通常総会 役割分担について、山岳古道集中山行 2025in 国東半島の参加
2027 年 20 周年記念事業準備委員会について

○5月報告 5月20日（火）リモート（三田、三品、甘楽、渡部、斉藤和、平野、松田、三田芳、香高、宇津木、
成田、）

◇山行・行事報告 4/16 上野原 坪山、4/19 登山道整備、4/20 安食地区 W、4/25 茨城県山菜山行、
4/26 栃木県・雨巻山、4/26 足利大小山、4/27 登山道整備、4/25～4/27 国東半島集中山行、
5/31 三浦富士～武山、5/5 奥多摩・シダクラ沢、5/10 支部通常総会、
5/15～5/16 南会津山菜山行、

◇山行・行事予定 両神山、富津岬 W、上信越・白砂山、大菩薩嶺、伯耆大山、房総 Base 草刈など

◇報告・検討事項 支部役割分担、支部 20 周年、袖ヶ浦市中学校野外活動支援予定、晴香園山行について

●会員・会友の動向

《入会》

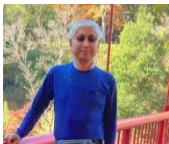
【会員】末吉千穂美（すえよし ちほみ）さん（17433）会友から

【準会員】松本さゆり（まつもと さゆり）さん（A0655）会友から

《退会》

【会員】村田正彦さん（13890）、滝川敏康さん（13960）、渡辺一夫さん（7051）

【会友】大浦陽子さん、黒住清美さん、関谷晶子さん、小山俊太さん、小山敏隆さん



編集後記：小川さんから支部だよりの編集を引き継ぎ、70号より編集を担当させていただきます斉藤和紀と申します。
編集作業は素人です。まだまだ前任者の素晴らしい構成員には遠く及びませんが、私なりの特徴が出せるように頑張るつもりですので宜しくお願い致します。
津田沼のヨシキスポーツさんにはSAC教室会場の提供ほか、千葉支部として大変お世話になっています。山用品を購入するときは是非ご利用して頂きたいと思います。会員になると割引があります。